



2004年5月28日

すべての企業に研究所を
ー自社のソフトパワーを磨き込もうー

株式会社 開倫塾
取締役社長 林 明夫

Q ソフトパワーとは何ですか。

A (林明夫。以下省略)力やお金によって他を従わせるハードパワーに対する考えで、自らの魅力により相手を引きつける力のことです。日本のソフトパワーとしては、ポケモンやアニメ、日本食、ロボット、禅や空手が考えられます。

Q 企業でもソフトパワーは考えられますか。

A 軍備や経済力などハードパワーだけで国家の安全保障が成り立たないように、自治体や公共部門、NPOや企業も、人がいて設備と資金があるだけでは存続が難しい時代になりました。特に、変化のスピードが激しい現代の企業は、原則倒産ですので戦略的に自社のソフトパワーを磨き込む必要があります。

Q 自らの企業のソフトパワーを磨き込むためにはどうしたらいいのですか。

A 私は、企業規模に関係なく、すべての企業に研究所を設立することを提言いたします。新製品・新サービス・新しい販路・新業態の調査、研究、開発を、自社の強みつまり自社のソフトパワーを磨き込む形で行う研究所をすべての企業は設立すべきです。

Q どのように研究所をつくれればいいのですか。

A お金のおちているところを捜し、原則倒産といわれる企業の存続をはかるのが社長の最も大切な仕事なので、社長が「研究所をつくるぞ」と宣言し、まずは社長自ら研究所所長に就任すべきです。次に、経営幹部や社員の中で一年365日、四六時中会社の現状を憂い、改革の意欲に溢れている人や自社の強みを生かした新製品・新サービス・新業態の開発に強い情熱をもつ人を捜し出し、研究員に任命することです。〇〇研究所と社長の手書きで看板をつくり、空いているスペースに掲示する。そして、時間無制限で好きなだけ研究することを社長は奨励してください。

Q 最後に一言どうぞ。

A 本代と調査のための旅費は、社長の給与を削ってでも出してあげてください。大学や他組織との連携もソフトパワーの磨き込みには有効です。社長の積極的な取り組みのみが社内研究所を活用した社内創業、社内ベンチャー成功のカギです。

2004年5月27日記